

毎日新聞をご愛読いただきありがとうございます



とうぶ
まいにち

11月12日(日)は新聞製作が休みのため

13日(月)の朝刊は

休ませていただきます

毎日小学生新聞 スポニチ も休ませていただきます

なお、スポニチは主要駅の売店などで販売しています

11月12日(日曜日)
2023年(令和5年)

発行元
埼玉中部毎日会第3支部
発行所
埼玉県越谷市宮前1-5-19
(毎日新聞越谷東部販売所内)
TEL 048-967-4515
FAX 048-967-4516
編集長 飯嶋英好
発行部数 50,000部
発行エリア
三郷市・草加市・八潮市
吉川市・越谷市・松伏町

★ニュース速報は、毎日新聞のニュースサイトでご覧いただけます
URL: <https://mainichi.jp/>

11月13日のテレビ・ラジオ番組欄は12日の朝刊に掲載します

毎日新聞社・毎日新聞販売所

次号12月は
10日(日)
発行予定



綾瀬川水系浄化運動(4面参照)に対する草加市民の反響(一部)を掲載します(写真は同会HPから)

▽朝、散歩するたびに川の汚さを見て、ため息をついていました。ホテルの見える川になりますように!

▽綾瀬川のすぐ側に住んでいます。綾瀬川にキレイな水が流れる事を望んでいます。

▽ホテルの里の合言葉はうれしく思いました。この運動を長い期間見守りたいと思います。よろしく願いいたします。

▽草加市が河川からの送水最末端とは知りませんでした。災害時

の断水は困りますね。いざという時は、川の水を汲み濾過器で濾過して使える様にしておく必要がありますね。まずは運動のご成功よろしく願います。

▽毎朝綾瀬川の土手を散歩しています。綾瀬川がきれいになったら、いいだろうと毎日思っていました。実現できるよう頑張ってください。

▽頑張ってください。草加でホテルを観たい(以上原文のまま)。



税のよろず相談所です

Life & Company Assist

税理士法人

L&Cアシスト

草加市住吉1-4-12-101

048(924)9244



エネルギーで、快適な未来をつくる

堀川産業株式会社



本社 〒340-0014 草加市住吉1-13-10
<https://www.horikawasangyo.co.jp>



ガス、でんき、灯油、リフォーム、暮らしのご相談はエネクルまで!



とうぶまいにち新聞社賞の作品「何処へ」と小島さん

とうぶまいにち新聞社賞 第51回 越谷美術協会公募展 小島由美子さんの油彩画「何処へ」

「越谷美術協会の受賞は約20年ぶり。賞をもらうことはやっぱり嬉しいですね」 作品「何処へ」(100号)は、情報が過剰に多い今を生きる小島さんが抱く不安を描いた心象風景だ。イヤリングを意味する耳元の貝殻は過去にたどった膨大な存在経験を象徴化した。過

ふらり秩父路 秩父事件 2023・11・12

秩父盆地を震撼させた「秩父事件」が勃発して139年になる。明治政府に西南戦争に準ずるとま

丘陵のてっぺんと思われる場所に観音堂前庭が広がり、梵鐘が見える。一部の自由党員を含めて蜂起した秩父困民党の農民ら数千人が明治17年(1884年)11月1日、旧吉田村(現秩父市下吉田)の棕神社に武装蜂起した農民らは2日には小鹿坂峠を越えて大宮郷(現秩父市)の音楽寺に集結。梵鐘が乱打され、農民兵は山道を一気に下り郡役所を占拠したり高利

貸しの家などを襲った。

政府軍や警察が出動して鎮圧にかけた。戦闘は秩父にとどまらず長野など他県にも広がり散り散りになった困民党は蜂起から10日ほどで鎮圧された。

困民党決起100年を記念した「秩父困民党無名戦士の墓」が秩父市街地が見える観音堂と梵鐘近



秩父困民党無名戦士の墓

くに建立されている。碑には「われら秩父困民党、暴徒と呼ばれ暴動といわれることを拒否しない」と刻まれていた。

秩父事件・明治政府のデフレ政策による不景気で生糸相場が急落。養蚕農家は生活苦に。秩父の農民は困民党を結成、借金の年賦償却、諸税の減免などを嘆願したが叶わず自由党の田代栄助を代表に武装蜂起した数千人が高利貸しや郡役所などを襲撃したが軍隊により鎮圧された。この蜂起で裁判にかけられたのは3618人。重罪は296人。田代代表ら7人が死刑判決。明治の自由民権運動でも最大のエネルギー爆発といわれる。

事件は長らく歴史の影にあったが「自由民権埼玉百年集会」(1981年10月)で事件の意味をさらに問い直す機運が高まったようだ。

岡崎ひろし(元毎日新聞記者・秩父ネイチャークラブ役員)

食品工場とNPOを視察

大野知事 ふれあい訪問

10月18日 松伏町



エスピースパイス工業埼玉工場で説明を受ける大野知事(中央)＝同社提供。

大野元裕知事が「ふれあい訪問」として10月18日、松伏町にあるエスピースパイス工業埼玉工場とNPO法人つなぐいのちの輪バイタルネットジャパンを訪れた。同社は創業者が同町出身の縁で62年前、工場を稼働、コシヨウ、わさび、からし等を生産。主力のチューブ入り香辛料は業界トップクラスの161品目を誇る。寺尾隆一郎社長の案内で工場を見学し



総合建設業 新築工事 リフォーム 土木工事全般 池中建設株式会社 越谷市東越谷7-141 ☎048-964-3611 http://www.ikenakakensetsu.co.jp

ISO9001(品質)/ISO 14001(環境)認証取得 明日の夢を創る 高元建設株式会社 代表取締役 高橋和彦 〒343-0811 埼玉県越谷市御殿町2番11号 TEL048-966-1661(代) FAX048-962-1661 ホムページ http://www.takamoto-cnst.co.jp/

田舎暮らしNOW

2023・11・12

見立細工上

10月の当欄で、別府浜脇温泉の祭りを紹介したが、その祭りには「見立細工」という、ちょっと風変わりな展示物が毎年出品されていた。祭り見学に行った際、気が付かなかったのだが、その後、見立細工を長年、守り続けている三重野治久さん(79)を紹介され、詳しく話を聞きに行くことになった。会う前に、(竹細工なら分かるが、見立細工とは何だろう?竹製品のことかな?)とふと思ひ、我ながら貧困な知識力に自分を嘆いてしまった。

話を聞けば、茶碗や湯飲み、籠、皿など日常の生活用品を使って、主に人形などを作るのが見立て細工だとか。起源はわからないが、すでに江戸時代には浜脇温泉へ湯

「浜脇温泉エリアはその昔、別府で一番の賑わいを見せていた」と三重野さん。大正時代に最も栄え、300軒を越す旅館や商店、料理屋、検番(芸者の取締まりや客席への取次ぎをする事務所見番)、人力駐車場など娯楽が昼夜の別なく遊客を呼んでいたそうだ。



土手に咲き誇る赤、白、黄色の曼珠沙華=幸手市権現堂公園

9月16日~10月1日 曼珠沙華まつり 幸手市観光協会

幸手市権現堂公園で9月下旬、堤の斜面に植えられた約300万株の曼珠沙華が見頃を迎え、遠くは都内や神奈川県から花見客が訪れた。管理事務所によると、今年は猛暑日の影響で開花が例年より10日ほど遅かったとか。

黄色がまず咲き、続いて赤、白色と続いたが、10月9日の豪雨でシーズンを終えた。来年1月からは水仙、春の菜の花と桜。さらに梅雨のアジサイ、真夏のヒマワリと続く。四季の変化を楽しめるスポットとして、人気上昇中だ。



見頃を迎えたコスモス畑=吉川市船渡内で10月3日撮影

花摘み客でにぎわう 吉川市・船渡内転作組合

江戸川に近い吉川市上内川のコスモス畑(広さ9231平方畝)でピンク、赤、紫など色とりどりのコスモスが咲き、大勢の人が訪れた。船渡内転作組合が景観作物として栽培。今年は春に土お

こし、8月に種をまいた。が、猛暑続きで雑草が生い茂り、雑草刈りが大変だったという。花摘みもOKで、見頃は10月下旬まで。岡田忠篤組合長(67)は「多くの方が秋を楽しんでくれました」と話す。



日常の生活用品で仕上げた「千手観音」写真・左下は制作者の三重野治久さん。

そんな賑やかな花街だった浜脇温泉エリアは、昭和末期に大規模な再開発が計画され、旅館や料理屋などが次々と整理されて、歓楽街は徐々に北へ北へと移り、JR別府駅前通りに面する北浜地区が現在の繁華街に変わったという。つまり、その昔は別府温泉郷を代表する歓楽街はこの浜脇温泉エリアだったわけで、今はもうその面影はない。

別府市は昔から竹林が多く、竹工芸に適した孟宗竹が竹材として切り出され、竹細工が伝統工芸の地場産業として根付いているが、その竹で作った籠や箆(ざる)などを巧みに組み上げて、花鳥風月に似せたつくりものを創作したのが見立細工の始まりだとか。「当初は“風流見立細工”と呼ばれていたそう。明治の終わりから大正時代にかけて、この風流見立細工が盛んになり、出来栄を競うようになった」と、三重野さんは話す(続く)。

鈴木 源柱(専業主夫・フリーライター)

本郷屋斎場

草加市市民福祉葬(市民限定) 実質0円

別館1日葬(ワンデー) 家族葬 29.9万円(税込)

本館1日葬(ワンデー) 家族葬 49.9万円(税込)

きれいな街づくり

エスシーエス株式会社

代表取締役社長 野崎 友義

埼玉県草加市青柳2-19-10
TEL 048-936-1234
FAX 048-936-3344
URL <http://www.scs-kk.co.jp/>

スライドドア車 食品リサイクル車 一般廃棄物収集運搬車



(一社) 綾瀬川水系浄化運動委員会

盛大に発会式

10月7日(土) 草加市文化会館大ホール

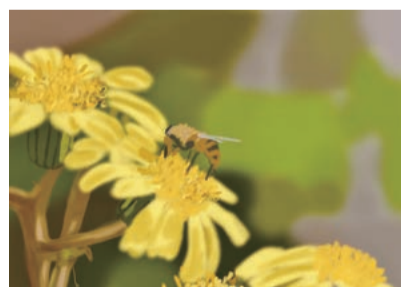
過去15年間「日本一汚い川」といわれた綾瀬川の清流を取り戻そうと、市民が立ち上げた一般社団法人「綾瀬川水系浄化運動委員会」の発会式が10月7日、草加市文化会館大ホールであった。写真上。運動の提唱者で会社役員の前原義夫会長が「東京湾を汚す不名誉を、市民と政治家の協力で返上したい」とあいさつ。駆け付けた元国土交通大臣で草加市民でもある石井啓一衆院議員は本紙の取材に対し「河川浄化に市民が自主的に取り組むことに非常に評価している。今後、国とのパイプ役として積極的に果たしたい」と明言した。

綾瀬川水系浄化運動委員会が掲げる主な事業は、①同水系(6河川)の水質浄化のため神明排水機場と辰井川排水機場をそれぞれ浄水場に建て替える②災害時や大地震で予想される断水に備え、浄水場から河川沿いに引いた配水管に一定間隔で蛇口を設け、災害時における市民の飲料水を確保するーなど。

市民運動の盛り上げとして、現在取り組む活動は①草加市民25万人の1割にあたる2万5000人の署名集め②市民や企業からの募金ーなどとなっている。もちろん事業の実現のためには巨額の費用と相当な年月がかかる。このため、国・県・市の理解と予算の裏付けが欠かせない(前原会長)。発会式では、綾瀬川の下流(源流(桶川市)までの実態がスクリーンに映された。源流を

のものが田んぼの水の寄せ集めでごみがプカプカ浮く様に場内から驚きの声。一方、河川の清掃団体の活動も紹介され、引き上げる粗大ごみの多さに二度びっくり。自転車、冷蔵庫…等。来場した主婦、青木真理子さんは「前原さんが長年街中でゴミ拾いをしていることは知っており、ぜひ河川浄化を実現してもらいたい」と話した。石井啓一議員は「(みなさんの会は)

もう一度、高みを目指し清流を取り戻す運動と思う。河川行政には治水と親水があるが、これから大きな成果をあげることを期待したい」と挨拶した。



ツワブキと蜂

あしがき

草加市民有志が、綾瀬川水系の浄化運動に取り組み始めた。「昔シジミが採れるを願う市民運動は同市で初。綾瀬川水系浄化運動委員会のホームページに寄せられた市民の声を紹介したい。「岩手出身で、川はきれいなものと思っていた。埼玉の川を初めて見たとき衝撃を受けた。川を見る

たびにきれいにしたいと思うっており、ご活動に大賛同。心より応援します」。市民の反響は大きいが、同会が掲げる事業の実現に法改正や巨額な予算が欠かせない。行政側による早急な検討の着手に期待したい。

会HP



編集長 飯嶋英好

(有) 飯島工務店

新築工事
リフォーム一般

代表 飯島輝男

〒340-0015 埼玉県吉川市中井三二一
Tel 048-982-1409 fax 048-982-1404

祝辞を述べる石井啓一・元国土交通大臣